

保健師 ルミ



保健課の皆さん(筆者前列左端)

それぞれの部署で課題に取り組み 市民の方々が健康で暮らせるまちを目指して

南さつま市 市民福祉部 保健課 地域健康係 係長
子ども未来課 母子保健係 主査
介護支援課 地域ケア推進係 係長

山口 美幸
久保 紀美子
矢野 一美



豊かな自然と歴史が
共存する都市

南さつま市は、薩摩半島の南西部に位置し、日本三大砂丘吹上浜の砂を活かした「砂の祭典」を毎年5月に開催しており、また、鑑真大和上が上陸した坊津や、薩摩の郷中教育に取り入れられた「いろは歌」など、豊かな自然と歴史が共存する健康元気都市です。

人口は、3万3383人（平成31年3月末時点）、国保被保険者は26%を占めています。保健師は、保健課、子ども未来課、介護支援課、南薩介護に配属されています。

保健課地域健康係の取り組み

保健課地域健康係には、保健師6名、管理栄養士2名（1名は嘱託）、看護師2名（嘱託）、歯科衛生士1名（嘱託）、事務職員4名、臨時職員数名が配置されています。

主に成人を対象にした保健事業等を担当し、医師会・歯科医師会等の関係機関及び食生活改善推進員・運動普及推進員など健康づくり推進員等と連携しながら健康で元気なまちづくりを目指し、健康増進計画に掲げた事業の推進に努めています。

本市の健康課題の一つに脳血管疾患死亡比の高いことがあげられ、



「高血圧プロジェクト」の様々な取り組みの様子

その対策として平成27年度から4つのモデル地区で「高血圧プロジェクト」に取り組み、平成30年度に評価のためのアンケートを実施しました。その結果、「栄養成分表示を参考にする割合の増加」、「1日の歩数を知っている者の増加」、「タブレット端末やスマートフォンを活用し健康に関する情報収集等の経験者の増加」など健康意識の改善につながる結果が得られ、実際に地域の方々の健康意識が高まってきた状況を実感することができました。引き続き、それらの結果を地域へフィードバックしながらアプローチに活かしていきたいと考えています。

また今年度は、市民総ぐるみで夏期巡回ラジオ体操に取り組み、約2000人が清々しい朝日の下、心地良い汗を流しましたが、この

ように健康づくりに関心を持つていただけるような機会を提供するとともに、今後はKDB等を活用した効果的な事業の実践にも努めていきたいと考えています。



市全体で取り組んだ「夏期巡回ラジオ体操」の様子

子ども未来課母子保健係の取り組み

子ども未来課に、本年度から母子保健係を新設し、保健師5名を配置し、子育て支援と母子保健支援を一体的に行うことで切れ目のない支援・サービスの提供を目指



母子保健係の皆さん(筆者後列中央)

しています。事業の実施にあたっては「子ども・子育て支援事業計画」に基づき関係機関や各課と連携を図りながら計画の基本理念である「子どもの笑顔がかがやくまちづくり」を目指し、施策の推進を図っています。

母子保健の取り組みでは、母子手帳交付から助産師や保健師による個別面談を行い、支援が必要な方には個別の支援を行っています。出生届があつた方全員に、個別または電話連絡により状況把握を行っています。新生児訪問は7割程度の方が利用されており、産後2か月目には保健師または母子保健推進員による「こんにちは赤ちゃん訪問」を行っています。また、法定健診以外に6〜8か月児・9〜11か月児健診、2歳児・4歳児歯科健診やお誕生相談、育児相談、発達相談会、言葉の相談会等も行っています。就学前から保健・福祉・教育分野の連携が十分にできていないことが課題となっています。

このような状況を踏まえ、令和2年度に「子育て世代包括支援センター」の開設を計画しており、妊娠期から18歳までに至る切れ目のない支援を提供する体制を構築し、母子保健施策と子育て施策との一体的な提供を通じた包括的な支援を行うことを目指していきます。

介護支援課の取り組み

介護支援課には保健師3名が配置され、うち2名は地域包括支援センターを委託している社会福祉協議会に派遣されています。

介護支援課では、地域支援事業の主旨に基づいた包括的な相談・支援の体制、住み慣れた地域での生活支援体制の整備、医療と介護の連携や認知症施策等に取り組んでいます。どの事業においても、医療や介護の様々な職種の方々との連携、地域のとりまとめ役の方やボランティア、消防や警察、行政との横のつながりなど、人と人とのつながりが重要と考えています。



介護支援課の皆さん(筆者右から2番目)

地域包括支援センターでは、認知症予防の取り組みの一つとして回想法を取り入れた教室の実施や、

住民主体のころばん体操を主にした元気づくり運動教室を市内13か所(うち3か所は今年度新規)で実施し、自治会の協力のもと、それぞれ工夫しながら参加者全員で取り組むなど、徐々に市内全域に拡がりをみせています。

また、認知症施策では、認知症カフェの開催やキャラバンメイトの交流の場づくりなどに取り組んでいます。認知症カフェの開催については、キャラバンメイト交流会で、介護サービス提供事業所として取り組めることはないだろうかという意見が出されたことがきっかけとなつて、介護サービス提供事業所での開催につながっています。

このように、今後も人と人とのつながりを大切にしながら、関係機関と積極的に協力して地域包括ケアにつながるよう活動をしていきたいと考えています。

力を合わせて市民の健康と幸せのために

以上、本市のそれぞれの部署の取り組みをご紹介させていただきましたが、市民が健康で安心して暮らせるよう、引き続き保健師がそれぞれの部署で、また、南薩介護派遣保健師も含めこれからも保健師同士が力をあわせて活動していきたいと思っています。